

ハイム本山の秋まつり参加記

高校 2 年生 大島 楽翔

我々生物研究部が何度も参加させて頂いているハイム本山のふれあいまつりに、2019 年の秋も参加させていただきました。校外で発表させていただく貴重な機会でしたので、発表する部員は準備を整えて当日を迎えました。

「発表する部員は」と言ったのは、私自身は当日別の用事が入っていて、発表をする予定ではなかったからです。しかし直前になりその予定がなくなったため、部長として挨拶をさせていただきに行った訳です。30 分の枠で、当時の中 1 が一人と高 2 が二人発表させていただきました。

一人目は「インフルエンザの基礎知識」と題してインフルエンザに関する幅広い知識を発表しました。そもそもハイム本山はサービス付き高齢者向け住宅ということで、たくさんの方が興味を示して下さいました。

二人目は初々しい中 1 が、「ダンクルオステウス」という古生代デボン紀の海の生物について語ってくれました。デボン紀当時、海で覇権を握っていた生物だそうで、その体長は 6m にも及んだそうです。詳しいことは長くなりますのでここでは書きませんが、正直とても良い発表で僕自身も興味を強く引きつけられました。

三人目は「遺伝子組み換えは万能なのか?」と題して、遺伝子組み換えについての最新情報を絡め、かみ砕きながら発表しました。DNA の塩基配列について、ひらがなに置き換えて説明するなどとてもわかりやすい発表だったと思います。実はこの先輩は国際生物オリンピックの日本代表で、それだけに発表には慣れているのだなあと、少なくとも発表が好きではない私はただ尊敬するばかりでした。

実は 2020 年の春にもお祭りが開催される予定だったのですが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。本来ならば参加してその記事も部誌に掲載する予定だったので、非常に残念に思います。

最後に、何度もメールでうち合わせしてくださったハイム本山の担当者の方を始め、このまつりに関係する全ての方々にお礼をするとともに、また参加できることを心待ちにしています。